

目指す学校像	・笑顔と希望のあふれる学校 ・美しく楽しい学校
--------	-------------------------

重点目標	1 情報端末の有効活用、主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践の推進 2 安心・安全な学校に向けた、子どもに寄り添う生徒指導・教育相談の充実 3 地域の一員として自分にできることを考え、行動できる児童の育成 4 主体的に学び続ける教職員集団の育成
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、3教科ともに全国平均を上回っており、概ね良好な成績となっている。 ○よい授業をつくるための基本的な授業の進め方について、全教職員の共通理解が図られている。 (課題) ○ICTの活用について、教職員間で取組に差が見られる。校内研修等に位置付け、全教職員が無理なく学ぶことができる環境づくりが課題である。 ○全国学力・学習状況調査の「算数の勉強は好きですか」の質問では、全国平均と比較して肯定的な回答が少なかった。同様に、「算数は将来、役に立つと思いますか」も少なかった。主体的な学びにつなげていくことが課題である。	基礎学力の定着に向けた授業改善	①スタディサプリを活用する等、常時活動として、朝の時間を有効活用する。 ②算数における教員(SA)の複数配置等により、個に応じた丁寧な学習指導や支援を実施する。 ③家庭学習の定着に向けて、学年だよりや懇談会で家庭への協力を呼び掛ける。	①②学校評価「授業が分かる」児童A評価が65%以上となったか。(昨年度61%) ③学校評価「家で正しい姿勢で学習に取り組んでいる」保護者の肯定的評価が70%以上となったか。(昨年度67%)	①学校評価「授業が分かる」児童A評価は63%であり、昨年度を上回ったが、目標値には届かなかった。 ①全教職員の年1回以上の授業公開を設定し、管理職による指導を行った。 ①外部講師を招聘した研修会を実施することができた。 ②4人のSA(スクールアシスタント)を1、2年生、特別支援学級に重点的に配置し、基本的生活習慣や基礎学力の定着に努めた。 ③学校評価「家で正しい姿勢で学習に取り組んでいる」保護者の肯定的評価は67%で昨年度と同様であり、目標値には届かなかった。	A	・教育委員会との連携を図りながら、校内研修を一層充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善を行っていく。 ・基礎学力の向上のため、朝の時間を有効活用し、スタディサプリやドリル、プリント等を繰り返し行っていく。 ・家庭にも協力を呼びかけ、望ましい生活習慣や家庭学習の定着に向けた取組を実施する。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 ・授業が分からない児童は、先生に訊くことができない場合が多い。先生に訊ける環境を用意してほしい。また、個別の声掛けや支援が必要である。児童に寄り添う姿勢を大切にしてほしい。 ・「タブレットを毎日使う」ことがあまりにも全面に出過ぎてしまうのは問題がある。人と人とのやり取りや会話が大切である。基本的生活習慣等を小さい頃から積み重ねていってほしい。 ・タブレットを管理できていない家庭が一定数ある。家庭による差が出ているのが、心配である。
2	(現状) ○学校評価「学校は楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童は93%であり、前年度より1%向上している。 ○施設・設備の不具合による児童の怪我は、昨年度1件発生した。怪我の発生件数は前年度より減少している。 (課題) ○児童の様子や面談等の記録を整理・構造化し、全教職員がいつでも確認できるデータ活用システムの見直し・再構築が課題である。 ○不審者対応のための校内施錠開錠システムや、不審者対応研修の見直しが課題である。	児童一人ひとりを大切に指導体制の構築	①管理職による教室巡回において、児童に積極的に声かけをしたりサポートをしたりする。 ②各主任やSC、外部講師による、生徒指導・教育相談に関する校内研修を実施する。 ③児童の様子や面談等の記録を整理・構造化し、全教職員がいつでも確認できるデータ活用システムを構築する。 ④校長を中心とした緊急時における校内支援体制を確立する。児童一人ひとりの変化を見逃さない、生徒指導・教育相談体制を構築・再編成する。	①②学校評価「先生に相談できる」保護者・児童の肯定的評価が85%以上となったか。(昨年度75%・81%) ③④学校評価「子どもの悩みやトラブルに適切に対応できている」教職員A評価が55%以上となったか。(昨年度47%)	①②学校評価「先生に相談できる」の肯定的評価は保護者77%、児童82%であり、昨年度を上回ったが、目標値には届かなかった。 ③④学校評価「子どもの悩みやトラブルに適切に対応できている」教職員A評価は32%で目標値には届かなかったが、肯定的評価は90%であった。 ③児童の様子や面談等の記録を整理・構造化し、全教職員がいつでも確認できるデータ活用システムを概ね構築することができた。	B	・一人ひとりの児童に寄り添った生徒指導・教育相談体制の構築のため、全教職員で足並みを揃え、組織で対応できるようにする。 ・生徒指導や教育相談に関する校内研修を実施し、学校全体で指導力を向上させ、子どもの悩みに適切に対応できるようにする。 ・不登校児童支援については、職員間で情報を共有し、保護者と連携を図りながら丁寧に対応する。校内教育支援センター(SoLa)の一むを開設し、教室以外の場所でも学べる環境を用意する。	・児童の登下校の様子を見ていると、安全に関する意識は向上している。しかし、安全に関する指導には終わりが無い。引き続き継続して指導をする必要がある。 ・「どうしたら怪我をしないか」グループや班で検討して、安全に関する意識を高めてほしい。 ・もっと地域の方の力がほしい。みんなで児童を見守ることができるようになってほしい。 ・道路や横断歩道、十字路では、「全て自分が優先」という意識の児童が多く見られる。どんな状況でも、左右の確認をする等の意識改革が必要である。
3	(現状) ○年3回の学校運営協議会を通して、学校や保護者、地域が協力してできることについて、熟議を重ね、話し合うことができていく。 ○学校だよりや学校安心メール等により、定期的に保護者や地域の方々に情報提供ができていく。 (課題) ○児童が地域を学ぶ学習に関して、年間指導計画に位置付けられているが、数年間行われていなかった行事もあるため、再度見直しが必要である。 ○地域との関わりの中で、「地域の一員として自分にできることを考え、行動できる」児童の育成が課題である。 ○「自ら」あいさつする児童が少なく、受け身の児童が多い。場にふさわしいあいさつや正しい言葉遣いができるようにすることが課題である。	学校・家庭・地域との連携	①児童や保護者、地域の方に対する積極的なあいさつや声かけを実施する。 ②授業における地域の人との交流を年間指導計画に位置付け、年9回以上実施する。 ③学校運営協議会において、代表委員の児童と地域の方々話し合う場を設定し、課題解決のための取り組みを実践する。	①②学校評価「地域や社会への関心」に関する教職員・保護者・児童の肯定的評価が昨年比各3%上がったか。(昨年度教職員84%・保護者70%・児童83%) ③学校運営協議会アンケート「児童は地域で手伝いを進んで行っている」の肯定的評価は46%であり、目標を大きく下回った。 ③学校運営協議会において、学校と保護者、地域、児童が参加し、学校の課題である「あいさつ」について話し合った。地域とともにあいさつ運動の推進に取り組むことを確認することができた。	①②学校評価「地域や社会への関心」の肯定的評価は、教職員71%、保護者71%、児童83%であり、目標値には届かなかった。 ③学校運営協議会アンケート「児童は地域で手伝いを進んで行っている」の肯定的評価は46%であり、目標を大きく下回った。 ③学校運営協議会において、学校と保護者、地域、児童が参加し、学校の課題である「あいさつ」について話し合った。地域とともにあいさつ運動の推進に取り組むことを確認することができた。	B	・学校運営協議会や学校地域連絡協議会等において、児童と保護者や地域の方々、学校の課題やその解決方法等について話し合ったり、交流したりする取組を増やしていく。 ・授業における地域の人との交流を年間指導計画に位置付け、実施する。 ・「あいさつ」については、引き続き学校の重要課題の1つとして、保護者や地域の方々と連携して、あいさつの推進に取り組んでいく。	・学校・家庭・地域に関する数字は、全体的に良くなっている。(改善されてきている) ・登下校の際に、保護者が一緒に付き添っているケースがあり、素晴らしい。 ・保護者であいさつできない人が一定数いる。あいさつの推進には、家庭の協力が不可欠である。 ・あいさつは生活の基礎・基本であり、大切にしてほしい。 ・「児童は地域で手伝いを進んで行っている」に関することについては、来年度改めて協議する。
4	(現状) ○日々の教育課題に即座に対応できるよう、校内研修や学年会等を通して、情報交換や勉強会を実践できている。 ○高学年での教科担任制の実施により、担当教科について、より深く教材研究をすることができている。 (課題) ○一人ひとりの教職員が担う業務を精選し、教材研究や主体的に学ぶ時間をいかに確保するかが課題である。	自律的に学び続ける教職員集団の育成	①年次研修や校内研修等を全教職員で学ぶ場として位置づけ、管理職や各教科主任等による丁寧な指導をする。 ②全教職員の年1回以上の授業公開または研修成果を発表する機会を設定する。 ③各分野の専門家である外部講師を招聘した研修会を年間2回以上実施する。 ④全教職員が学びの成果を振り返ったり、新たな学びに向かうことができたように、各学期1回程度、管理職による対話に基づく受講奨励を実施する。	①よい授業アンケートの4つの因子における全職員平均値を昨年比各0.1ポイント上がったか。(昨年度①16.8②16.6③16.8④16.2) ②学校評価「主体的に学ぶことができていく」教職員の肯定的評価が80%以上となったか。(R5新設項目) ③学校評価「研修の成果は、日々の教育活動に生かすことができていく」の教職員のA評価が50%以上となったか。(昨年度27%) ④管理職による対話に基づく受講奨励を各学期1回実施できたか。	①学びの指標4つの項目における全職員平均値は、①主体的な学び(3.2)②探究的な学び(3.1)③ICTの効果的な活用(3.0)④基礎的な授業スキル(3.4)であった。 ②学校評価「主体的に学ぶことができていく」の教職員の肯定的評価は87%であり、目標を上回った。 ③学校評価「研修の成果は、日々の教育活動に生かすことができていく」の教職員のA評価が23%であり、目標値には届かなかった。 ④管理職による対話に基づく受講奨励を各学期1回以上、実施することができた。	B	・探究的な学びやICTの活用が本校の課題であるので、校内研修等で改善の視点として実施する。 ・校内研修体制を見直し、全教職員が参加し、自律的に学べるような組織づくりを行う。 ・全教職員が年1回以上の授業公開を行い、指導主事や管理職による指導を行う。 ・各分野の専門家である外部講師を招聘した研修会を年間3回以上実施する。	・先生方は自信をもって授業を行ってほしい。管理職には、先生方が自信をもてるよう、声掛けやフォローをお願いしたい。 ・若い先生方が良く頑張っている。子どもたちが成長しているのは、若い先生方の頑張りが大きい。 ・研修が実践に結び付くためには、研修のテーマの設定を再検討する必要があるかもしれない。